

はじめに

アイヌ民族は、古くから、北海道をはじめ日本列島の北の方に住んでいました。畑も耕しましたが、おもに大自然のなかで、木の実や草の根をとったり、魚や獣をとって暮らしていました。それを遠い土地に運んでさまざまなものと交換し、ふだんの暮らして使ったり、宝物にしていたのです。

アイヌの人々は、アイヌ語を話していました。日本語とはまるでちがう言葉です。「アイヌ」とは、アイヌ語で「人間」という意味です。文字を使わず、たくさんの物語を親から子へ、子から孫へと語りついできました。

アイヌの物語には、よく「カムイ」が登場しますが、それは、アイヌの人々が考える神さまのことです。アイヌの人々は、自然界で人間と関わりのあるあらゆるものを、カムイだと考えました。天の世界にはそれぞれのカムイの国があり、カムイたちはそこでは、人間と同じ姿をして暮らしていると思われていたのです。

この本にのっている物語はみんな、アイヌのおばあさんがお話ししてくれたり、書きのこしてくれたものです。もともとは、囲炉裏ばたで、子どもや孫たちに聞かせる物語でした。おばあさんから昔話を聞くように、みなさんも、アイヌの物語を楽しんでくださいね。